

CASBEE-建築(新築)2014年版
 (新築)グンゼライフポケットAYURA内ケースデンキ綾部店 新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.01)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.4
Q1 室内環境								2.7
1 音環境		2.6	0.15					2.6
1.1 騒音		3.0	0.40					
1.2 遮音		3.0	0.40					
1 開口部遮音性能		3.0	1.00					
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音		1.0	0.20					
2 温熱環境		2.2	0.35					2.2
2.1 室温制御		3.5	0.50					
1 室温	夏期26℃(レベル3)・冬期22℃(レベル5)の室温設定である。/	4.0	0.50					
2 外皮性能		3.0	0.17					
3 ゾーン別制御性		3.0	0.33					
2.2 湿度制御		1.0	0.20					
2.3 空調方式		1.0	0.30					
3 光・視環境		3.0	0.25					3.0
3.1 屋光利用		3.0	0.50					
1 屋光率								
2 方位別開口								
3 屋光利用設備		3.0	1.00					
3.2 グレア対策								
1 屋光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御		3.0	0.50					
4 空気質環境		3.2	0.25					3.2
4.1 発生源対策		4.0	0.50					
1 化学汚染物質	規制対象の建材において、F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に使用し	4.0	1.00					
4.2 換気		2.0	0.30					
1 換気量		3.0	0.50					
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50					
4.3 運用管理		3.0	0.20					
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50					
2 喫煙の制御		3.0	0.50					
Q2 サービス性能			0.30					3.0
1 機能性		2.9	0.40					2.9
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40					
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応		3.0	1.00					
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性		2.6	0.30					
1 広さ感・景観	天井高は3.6m以上である。/	5.0	0.33					
2 リフレッシュスペース		2.0	0.33					
3 内装計画		1.0	0.33					
1.3 維持管理		3.0	0.30					
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50					
2 耐用性・信頼性		2.8	0.30					2.8
2.1 耐震・免震		3.0	0.50					
1 耐震性		3.0	0.80					
2 免震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	2種類以上でC以上、Eは不使用である。/	5.0	0.20					
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20					

2.4 信頼性			2.2	0.20			
1	空調・換気設備		3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20			
3	電気設備		3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法		1.0	0.20			
5	通信・情報設備		2.0	0.20			
3 対応性・更新性			3.3	0.30			3.3
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30			
1	階高のゆとり	階高は3.9m以上である。	5.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ	1Fで計算。壁長さ比率=0.1	4.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30			
3.3 設備の更新性			2.6	0.40			
1	空調配管の更新性		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性		1.0	0.20			
3	電気配線の更新性		3.0	0.10			
4	通信配線の更新性		3.0	0.10			
5	設備機器の更新性		3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30			1.5
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40			2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			1.5	0.30			1.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			1.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性							3.4
LR1 エネルギー			-	0.40			3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.84 < 0.90	4.0	0.22			4.0
2 自然エネルギー利用			-	-			-
3 設備システムの高効率化		BEI _m 非住宅 0.80 住宅(専有部) 0.83	4.0	0.56			4.0
集合住宅以外の評価(3a,3b)		BEI _m =0.80 < 0.90	4.0	1.00			
集合住宅の評価(3c)							
4 効率的運用			2.0	0.22			2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00			
4.1 モニタリング			3.0	0.50			
4.2 運用管理体制			1.0	0.50			
集合住宅の評価							
4.1 モニタリング							
4.2 運用管理体制							
LR2 資源・マテリアル			-	0.30			3.5
1 水資源保護			3.4	0.20			3.4
1.1 節水		主要水栓の過半以上に節水型の水栓、便器を採用している。	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70			
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60			3.5
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11			
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ビニル床材、屋内床	5.0	0.22			
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体+LGS+PBとなっているため、躯体と仕上材の分別が容易である。	4.0	0.22			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20			3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70			
1 消火剤			-	-			
2 発泡剤(断熱材等)		グラスウール・ロックウールを使用しており発泡系断熱材は使用していない	5.0	0.50			
3 冷媒			3.0	0.50			
LR3 敷地外環境			-	0.30			3.3
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率83%	3.6	0.33			3.6
2 地域環境への配慮			3.4	0.33			3.4
2.1 大気汚染防止		オール電化であり、燃焼設備がない。	5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.6	0.25			
1 雨水排水負荷低減			-	-			
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.33			
3 交通負荷抑制			3.0	0.33			
4 廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.33			
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			
1 騒音			3.0	1.00			
2 振動			-	-			
3 悪臭			-	-			
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40			
1 風害の抑制			3.0	0.70			
2 砂塵の抑制							
3 日照障害の抑制			3.0	0.30			
3.3 光害の抑制			3.0	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70			
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30			